

「伝記」読書会を開き、自分の生き方について考えよう

中心学習材 「イーハトーブの夢」(光村図書6年下)

補助学習材 「宮沢賢治」ほか伝記

<育てたい主となる能力>

◎本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。(読才)

<主となる言語活動>

◎伝記を読んで考えたことを話し合う読書会を開く。

1 子どもと単元について

(1) 学習者観

子どもたちは「読むこと」の学習として、4月に「カレーライス」(光村図書・6年上)で、人物の行動や会話文に着目しながら登場人物の心情の変化や相互関係を読み取り、視点を変えて作品の一部を書き換える学習を行った。この学習によって登場人物の心情が直接的に描写されているところや、行動や会話によって暗示的に表現されているところに気を付けて読む力を付けることができた。6月には「読書の世界を広げよう」という単元で、「森へ」(光村図書・6年上)を表現の特徴を味わいながら読んだり、複数の本を選んで比べて読んで共通したテーマをもつ本を同学年に推薦したりするという学習を行った。この単元では擬人法や比喻に気を付けて読んだり、自分が選んだ複数の本のテーマを考えながら読んだりする力を付けることができた。また、自分が読んだ本を推薦するためにふさわしい言葉を集めてそれらを活用することで、語彙を豊かにしたり表現をより吟味したりすることができるようになってきている。

子どもたちは、ある視点をもって読むことによって漫然と読むときは異なりそれまでは気付かなかったことが初めて見えてくることを自覚するようになった。このような学習が読むことに楽しさを感じたり、自分の考えを他者と交流することの価値を見いだしたりすることにもつながっているといえる。

読書については週2回の朝読書だけでなく、時間を見付けてごく短い時間でも本を読んだり休み時間を利用して図書館に足を運んだりしている子が多い。読書に対する関心が高く、おもしろかった本や買った本の内容を話題にするなど、日常的に読書を意識した生活をしている。理科や社会の学習内容に合わせて本を選択して調べ学習に役立てている子も増えてきている。

(2) 学習材観

学習材「イーハトーブの夢」は、宮沢賢治の生き方や考え方、作品などを紹介した評伝である。賢治の誕生から時系列で生涯を追って書かれている。その中で、賢治の考え方や理想とした生き方が表れている作品が紹介されている。賢治の写真やイーハトーブの地図などの資料も多く使われており、前の単元で賢治の作品を扱っていることから、子どもたちも興味をもって読むことができると考える。

伝記は、子どもたちが自分の将来などを考え始めるこの時期に、これからの自分の生き方について考える指針を与えてくれるものである。伝記で取り上げられている人物は実に多様であり、その子ども時代を取り出してみると、家庭状況や性格、好きなものなど、読者となる子どもたちと同様で様々であることがわかる。子どもたちは、自分との共通点や相違点を見付けながら読むことで、何かを成しえたのはなぜだろうかとその人物に興味をもつだろう。また、伝記に取り上げられた人物がどのように考え行動していったかについて、自分が共感するところや真似をしてみたいところなどを考えることもできる。伝記は、子どもたちにとって将来への夢や希望をもって自分の生き方を考えていくのに適している学習材である。

(3) 学習指導観

指導に当たっては、以下の点に留意していく。

第1次では、伝記を読んだ経験を話し合ったり伝記についてのブックトークを聞いたりして、伝記に対する関心を高める。伝記の読書会を通して、人物の生き方や考え方を話し合い、自分の生き方についての考えを深めていこうという単元の見通しをもたせて学習計画を立てる。次に「イーハトーブの夢」を読み、伝記の特徴を理解する。筆者が人物の生涯を具体的に伝えるためにどのような説明方法をとっているか、事実と意見、感想の違いに気を付けて読みながら、宮沢賢治の子ども時代と業績をカードにまとめる学習活動を行い、読書会Ⅰに向けての伝記の読み方を理解する。

第2次では、前時に学んだ伝記の読み方を活用して、どんどん伝記を読んでいく。子ども時代と業績を書き込んだカードは書き終わるごとに掲示して、読書会Ⅰを開く前でも、子どもたち同士が読めるようにしておく。読書会Ⅰを開き、それまでに読み進めていた作品の中から自分の気に入った2冊を紹介する。たくさんの伝記が紹介されることになり、ここから自分が最も読んでみたい1冊を選ぶことになる。

第3次の読書会Ⅱでは、人物の生き方や考え方に共感するところや取り入れたいことを中心に話し合うことを確認して、その準備となる読書をする。読書会Ⅱは、3つの段階で構成する。段階1では同じ人物を選んだ人同士でグループ編成し、読み取ったことを持ち寄って人物の生き方や考え方のよさについて話し合う。段階2では違う人物を選んだ人同士でグループを編成し、段階1で話し合ったことを交流する。段階3では、学級全体で段階2の話聞いた後の自分の考えについて交流する。一人の人物について深く理解するだけでなく、他の人物についての話を聞くことで生き方や考え方の共通点や相違点に気づき、本当に自分が共感したり取り入れたい生き方なのか考えることができる。

第4次では、読書会Ⅱを通して人物の生き方や考え方を学び、これからの自分の生き方について考えたことを20才の自分に宛てた手紙に書く。単元を振り返り、読書会が自分の考えを広げたり深めたりするために有効であることが感じられたかどうか話し合ったり、次に読書会をするとしたらどんなテーマがよいか意見を出し合ったりして読書につなげていく。

《読書との関連》

本単元では、読書との関連を以下のように図っていく。

単元の初めに、伝記についてのブックトークを行ってさまざまな人物への興味や関心をもたせるようにする。伝記を読み進めるときには、子ども時代や業績をまとめて書いたカードを教室に掲示して読書意欲の継続を図る。

【ブックトラックに用意した本】

番号	書名	出版社
1	講談社火の鳥伝記文庫 マザー＝テレサ	講談社
2	エジソン	講談社
3	手塚治虫	講談社
4	野口英世	講談社
5	ナイチンゲール	講談社
6	キュリー夫人	講談社
7	田中正造	講談社
8	リンカーン	講談社
9	宮沢賢治	講談社
10	アンネ＝フランク	講談社

1 1	伝記 世界を変えた人々 シリーズ	偕成社
1 2	子どもの伝記全集 シリーズ	ポプラ社
1 3	少年少女全集 伝記と美しいお話 シリーズ	講談社
1 4	子ども伝記図書館 シリーズ	学習研究社

(4) 教科等の学習や日常生活への活用例

- ・読書をして自分の考えを交流する読書会を開く。(国語)
- ・興味をもった人物の生涯や業績，時代背景などを調べてまとめる。(総合的な学習の時間・社会)
- ・相手に応じて本の推薦をする。(朝の会などの日常生活)

2 学習指導目標及び評価規準

	学習指導目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	◎読書会を通して伝記を進んで読んだり自分の生き方について考えたりしようとする。	・伝記を進んで読み，生き方について共感できる人物を見付けたり，自分の生き方について考えたりしようとしている。
読む能力	◎伝記を読んで考えたことを交流し，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読オ) ○目的に応じて文章の内容を的確に押さえてとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。(読ウ)	・伝記を読んで人物の生き方や考え方について考えたことを交流し，考えを広げたり深めたりしている。 ・伝記から人物の業績，行動，名言などを読み取って，それらについて自分の考えを明確にしながら読んでいる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。 (イ(オ))	・語句と語句の関係をとらえ，人物の生き方についての的確に理解している。

3 学習指導計画（全7時間）

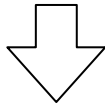
【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

第1次
単元のねらいをし
り学習の見通しを
もつ。
(2時間)

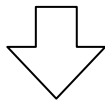
- ① 偉人の生き方に学び、自分の生き方を考えるための学習計画を立てる。
 - ② 「イーハトーブの夢」を読んで伝記の特徴を知り、宮沢賢治の生き方をまとめる。
- <評価> _____
- ① さまざまな人物の生き方を学び、自分の生き方を考えるという単元のねらいを理解し、学習の見通しをもっている。 《ノート》
 - ② 伝記の特徴を考えながら読み、宮沢賢治の子ども時代、業績、心に残ったことをまとめている。 《発言・カード》



第2次
読書会Ⅰを行う。
「伝記を紹介しよう」
(2時間)

- ③ 好きな伝記を選んで読む。
 - ④ 読書会を開き、自分が読んだ伝記2冊を紹介する。
- <評価> _____
- ③ 伝記を読みながら、子ども時代をまとめたり、業績、心に残ったことを文章で表したりしている。 《カード》
 - ④ 自分が読んだ伝記に取り上げられた人物について子ども時代と業績、心に残ったことを紹介している。 《発表・カード》

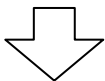
前時で学んだ、視点をもった読書の仕方を活用して伝記を読む。



第3次
読書会Ⅱを行う。
「人物の生き方について考えよう」
(2時間)

- ⑤ 読書会Ⅱの計画を立て、その人物の生き方に共感するところや取り入れたいことを中心に話し合うという見通しをもつ。
 - ⑥ 読書会を開き、人物の生き方を話し合うことによって自分の生き方について考える。(本時)
- <評価> _____
- ⑤ 人物の生き方について共感するところや取り入れたいところを中心に読み、読書会の準備をしている。 《発言・ノート》
 - ⑥ 人物の生き方について共感するところや取り入れたいところについて話し合い、自分の生き方についての考えを深めている。 《交流の様子・ノート》

「推薦文を書こう」の学習で学んだ推薦の仕方の知識・技能を活用して各自の選んだ人物の生き方についての考えを交流する。



第4次
生き方について考えたことをまとめる。
(1時間)

- ⑦ 未来の自分に向けて、自分が学んだ生き方と自分の生き方を中心とした手紙を書く。
- <評価> _____
- ⑦ 読書会を通して学んだ生き方とこれからの自分の生き方を20才の自分へ贈る手紙に書いている。 《手紙》

4 本時の指導

(1) ねらい

読書会で人物の生き方について共感するところや取り入れたいところについて話し合い、自分の生き方についての考えを深めることができる。

(2) 既習の知識・技能を活用する言語活動

「読書の世界を広げよう」の学習では、テーマに着目して複数の本を読んだり相手によさを伝える語彙を増やしたりすることができた。そこで学んだ推薦の仕方の知識・技能を生かし、人物の生き方のすばらしさについての考えを交流する。

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	形態	指導上の留意点
つかむ	1 本時の学習課題を確認する。 (1分) 伝記を読んで「生き方」について考えよう。	全	○本時の読書会ではどんな人の伝記が取り上げられるのか想起し、人物の生き方や考え方について自分が考えたことを話し合うことを確認する。
	2 課題解決の見通しをもつ。 (2分)	全	○読書会の流れ、進行について確認し、見通しをもって活動できるようにする。 ・グループ①→グループ②→全体交流の3部構成であること。 ・グループの進行役は時間を見ながら進めること。
読書会を通して人物の生き方考え方について自分の	3 学習課題を解決する。 (1) 読み取ってきたことを話し合う。 (10分) ・共感するところは～、取り入れたいところは～ 理由は～。根拠は～。 ・印象的などころは～。 ・○○さんのすばらしさは～。など	グ①	○同じ人物を選んだ人でグループ(3～4人)を作って読書会を始める。 本時に入る前に、印象的なエピソードや人物の生き方について共感するところ取り入れたいところに着目して伝記を読む。それを基に理由や根拠を明確にしながらか話し合うようにする。後半には、その人物の生き方考え方に共感できるところやすばらしさはどのようなところなのか整理するようにさせる。
	(2) 人物の生き方や考え方のすばらしさについて交流する。 (15分) ・○○さんの生き方に共感します。理由は～ ・○○さんと△△さんとの共通点は～だと思ひます。など	グ②	○異なる人物を選んだ人でグループ(3～4人)を作って読書会を始める。 共通点や相違点などに気を付けながら交流し合い、考えを深めたり広げたりする技能を定着するとともに、人物の生き方考え方すばらしさの理由がよく分かるか説明に気を付けたりすることで思考力・判断力を高めることにつながるものと考える。
	(3) 他の人物の生き方や考え方を聞いて考えたことを交流し、自分の考えをまとめる。 (10分) ・共通点は～ ・相違点は～ ・納得したところは～ ・人物の生き方のすばらしさは～ ・自分に取り入れたいところは～	全	○他の人物の生き方や考え方を知って、自分が選んだ人物との共通点や相違点はどこだと考えるか、人物の生き方のすばらしさや自分の生き方に取り入れたいところには何かを話題にして、自分の考えを深めることができるようにする。

<p>考えを深める</p>	<p>〈まとめ方〉 人物の生き方のすばらしさから自分の生き方に取り入れたいことを2段落で記述する。(100字前後)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><評価></p> <p>A 発言の内容をよく聞き、説得力のある理由を述べながら話し合い、人物からの生き方から学んだすばらしさや自分に取り入れたいことをまとめている。</p> <p>B 発言の内容をよく聞き、共通点や相違点などに気を付けながら話し合い、人物の生き方から学んだすばらしさや自分に取り入れたいことをまとめている。</p> <p>Cへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の発言をよく聞いて、共通点や相違点があったら付け足して話すように助言する。 ・ 進行役から適宜指名してもらい、発言の機会を作るようにする。 ・ 子どもと対話しながら考えを引き出すようにする。 <p style="text-align: right;"><交流の様子・ノート></p> </div>
<p>まとめる</p>	<p>5 学習を振り返る。 (1) 振り返りを記入する。(4分)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の考えが深まったり広がったりしたと感じた点について</p> </div> <p>(2) 振り返りを交流する。(2分)</p> <p>6 次の学習内容を確認する。(1分)</p>	<p>個</p> <p>○本時の読書会を通して、自分の考えが深まったり広がったりしたことを記入させることにより、本時の学習で使った言葉の力を実感できるものとする。</p> <p>全</p> <p>○考えが深まったり広がったりしている感想を取り上げて全体に知らせて価値付けを図る。</p> <p>○本時の学習を基に、人物の生き方考え方のよさを自分自身に推薦する手紙を書くことを確認する。</p>